

きずな

第22号 平成23年4月20日

お陰様で、まちサポは二周年を迎えました。
23年度総会及び交流サロン開催
5月29日(日)13時30分～16時
大網白里町中央公民館 講堂
 昨年度の活動報告と今年度の活動紹介
 参加者相互の交流会を行います。
 楽しい企画を計画中です。お楽しみに。



お話会の様子。中央にあるのが、手作りの紙芝居の台です。彫刻がすてきです。



毎月第2木曜日のまちサポは、ほっと・けーきピュアさん主催の木曜サロンで、賑わっています。この日の午後は、雑学大です。いろいろな方がご自分の体験談を話してくださっています。

大網白里町昔話を語り継ぐ会 顔晴る貴方に送る昔話「開催」

4月の雑学大学は大網白里町の昔話を聞く会でした。白里地方に残る昔話を、手作りの紙芝居や朗読をして下さり、ほのぼのとしたひとときになりました。この町の昔話を聞く機会があまりないので、とてもおもしろく、また貴重な時間を過ごさせていただき、当日は二〇人弱の方がコーヒーを飲みながら、楽しみました。大人でも、紙芝居は楽しい物です。また、こんな機会を作り、もっと多くの方にも楽しんでいただきたいと思います。

今月の顔



まちサポのキャラクターあみくん(左)とさぼちゃん(右)です。これまでも、この町の風習やあんな事こんな事のミニ情報を掲載



してきましたが、これからはこの二人に案内をお願いします。身近な情報をご紹介します。

23年度新規会員を募集しています。

会員団体募集

ネットワークを広げ協働のまちづくりに参加しましょう

- 私たちは、中立的な立場から“協働のまちづくり”に参画する民間の中間支援機関です。
- 私たちは、まちづくりに関する提案・提言を行います。
- 私たちは、まちづくり、環境、子どもの健全育成地域安全など公益的活動を進め、ボランティア団体・NPO、企業のみなさんと協働のまちづくりを推進します。
- 私たちは、まちづくり活動に必要な情報の発信・共有および管理機能を持って、会員の円滑な活動をサポートします。
- 私たちは、まちづくりの活動拠点を提供します。
- 私たちは、支援を必要とする人たちの生活課題に対応し、ここに住んでよかったまちづくりの実現に努めています。

■会員申し込みはまちサポまで



演目

- 一、津波と子狐
- 一、橋になった大蛇(紙芝居)
- 一、盗賊達と四天王様
- 一、狐の嫁入り(紙芝居)
- 一、イボ取り六部様
- 一、鷲の恩返し(紙芝居)

東日本大震災の それぞれ

たくさんの応援ありがとう

まちサポで何ができるか。まちサポらしい支援をと考えて、盛岡の学び応援プロジェクトに山武 SNS を通して協力することに、会員さん・当番さんなど、まちサポにかかわるすべてのかたにメールで協力をお願いしました。早速持ち込まれるようになりましたが、中には、

これで文房具を買ってとお金を持って来られる方もいました。そこで支援金の募金箱を作りました。たくさんの方に協力をお願いできました。支援金を利用して文房具を購入、山武での収集場所になっている山武市役所の交流サロンに四月六日に持って行きました。山武 SNS

3月11日午後2時46分 東日本大震災が発生
1ヶ月たった今でも余震が続き、不安な中での生活を余儀なくされています。幸い他の町より被害の少なかった大網白里町。いろいろな方がそれぞれに考えて、支援活動を行っています。

まちサポに集まった支援物資

大学ノート250冊・自由長9冊・キャラクターノート10冊・下敷き5枚・消しゴム222個・定規26本・コピー用紙3,100枚・鉛筆627本・ボールペン94本・シャープペン54本・芯23個・バインダー11冊・ファイル3枚・はさみ7丁・定規セット1組・コンパス7個・縄跳び2個・単語帳2冊・色鉛筆16ケース・マジック36本・蛍光ペン8本・コンパスセット21セット・のり・ペンケース・セロテープ・ホチキスの芯・メモ帳・折り紙・鉛筆削り・スケッチブック・画用紙・つめきり・ハンカチ・ハンドタオル・バスタオル・ぬいぐるみ・スクールバック35枚・スクールバック3点セット10セット など

支援金 17,429円

(1万5千円で文房具を購入し、
残金はNPO支援に募金しました)

私の三月十一日

宇田 一正

あの東北関東大震災の時、皆様はどのようにすごしましたか。

私は町の献血ポスターを配布しておりました。(献血は三月十七日に済み)丁度「しまむら」の前の信号待ちをしていたとき、グラツときて信号機が消えました。隣のダンプの運転手さんに地震だねと確認し、すぐに帰宅しました。とたんに余震、怖かったですね！テレビをつけましたが停電。すぐに経田の信号機はと思い、横断中の旗を持って交差点へ向かいました。(私は、交通安全推進隊に所属なので横断中の旗は持っている)案の定、信号機は止まっていた。すぐに大里総合管理の人達と交通整理を始めました。夜の九時頃迄、私は実施し、帰宅しました。

自宅は停電で石油・ガストーブがつかえません。妻と二人でロソクと懐中電灯の夜でした。本当に寒い一日でした。

東海沖地震が予想される昨今、今回の大地震を機に我が家の防災計画をたてたいと思います。(次号に続く)

宇田一正さん▼日赤防災ボランティア・交通安全推進隊に所属、第二の人生を楽しんでいます。献血回数、二五六回がご自慢。富田在住。

の仲間からもたくさん集の管理人の小島さんが担
まっています。種類ご
とに仕分けをし、段ボー
ル箱十二個できました。

これを南から来る SNS の
トラックに乗せるために、
東京葛飾に運びます。こ
れは、山武市市民自治課
の渡辺課長と山武武 SNS
に協力。まちサポのお当
番さんに手伝っていただ



東日本大震災救援物資を集める活動で思う

みずほ台 大野 英雄

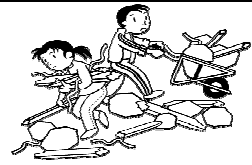
3月11日の地震発生した時、私は京葉線の電車に乗っていた。大きな揺れは、まるでブランコに乗っているようだった。車中の人は携帯を見たり、PCを取り出し津波の情景を見ていて浮き足立った様子もなく平静だった。電車は全く動かず1時間経過して「救済します」のアナウンスがあり、6号車から下ろされて線路を歩いて新浦安のオリエンタルホテルに移動し、その日はホテルで男も女もゴロ寝した。翌日、地下鉄が少し動きだしたので東西線の浦安駅まで歩いた、道路も橋も液状化が激しかった。何回もバスを乗り継いで大網の自宅に帰ったのは夜9時だった。

13日の日曜日の朝、私が主催する「大網駅を安全で美しくする会」に出席するため大里綜合管理に集まると野老真理子さんが見知らぬ女学生を2人連れてきた。聞くとドイツ旅行から福島に帰る途中に地震で帰れなくなり、偶々東京国際フォーラムで隣にいたKさんの機転で大里に居候しているという。定例会では、彼女たちを支援しよう、そして彼女たちには福島とのパイプ役になってもらうことで話しが一気にまとまった。「大里綜合管理は、10人の仕事と10人の宿を準備する」「私たちは彼女たちを支援する」という大きな目標に向かって進むことにした。私は被災地の救援物資を集めるチラシを作成してみずほ台、みやこ野、みどりが丘に約2000枚のチラシを配った。山武 SNS にも救援物資依頼のアナウンスをした。安藤園子さんはチャリティコンサートを開いた。



これまで延べ700人の支援を頂き、いわき市、南相馬市、福島市にトラック10台、マイクロバス3台分の集まった支援物資と野菜を運んだ。熱意が人を動かすことを実感して本当に嬉しかった。

今、日本は厳しい状況にいる。困っている人がいれば皆で協力して一緒に支援しようじゃありませんか。日本復興の為に！



き、まちサポでも手作りしました。会員の方以外からも持ち込まれ、三五枚送ることができました。ありがとうございます。四月十一日は、千葉駅の街頭募金に理事の後藤さんと参加。ボランティアを支援するNPOを支援するための支援金の募金集めでした。千葉県内のNPO関係者、三〇名が集まりました。今回被害のあった旭市からも参加してください、一時間で一四万円が集まりました。多くの善意に出会えた時間でした。



先日(四月九日)澄子さんが、老衰により天寿を全うされました。九十六歳でした。昨年澄子さんが八十歳のときに自費出版された『「残り日」日記 落ち葉の小途』の復刻版を読みました。そのあとがきの中で「先祖四百五十年の思いのこもる屋敷、家族の思いのこもる木々、そして私にとつてかけがえのない自然の森は、どうしても残したい。」そして「多くの人々の心の安らぎの場にしてほしい」という澄子さんのお気持ちが書かれていました。十枝の森は、澄子さんの願い通りに安らぎの森となり、みんなに愛されている森になっていくことを感じています。これからの願いが続くことを、澄子さんのご冥福と共に祈りたいと思います。

十枝の森は、守る会の方々が、毎月第一日曜日に掃除をしてくださっています。こちらの活動にもご参加をお願いします。



あみくん、さぼちゃんの大網白里★あれこれ

十枝の森(北吉田)

今の大網白里町は、両総用水のおかげで水田に水が潤っています。かつては深刻な干ばつに悩まされていました。十枝の森は、この両総用水実現のためにご尽力くださった十枝雄三さん(名誉町民第一号)の居宅でした。十五代当主の澄子さんが、町に寄贈してください、今では大網の生態系わかる貴重な森として、散歩や絵を描きなどに、町の皆さんに親しまれています。

考察 “協働のまちづくり”

まちサポ 理事三澤清隆

前号において、「住民というのは誰なのか」について語った。また、「協働のまちづくり」を進めるにあたって、「主体」についても触れた。さて、「住民協働」、「住民参加・参画」は、まちづくりの推進に不可欠だとする考え方が「新しい公共」によって実証されようとしています。このことは、地域主権・地方分権改革が進捗し、地域社会の置かれている環境(1)がこれまでと比べどう変わろうとしているのか、基礎自治体の果たす役割やあり方・対応が問われています。そのため前述の「新しい公共」のとらえ方は地域の実情に沿った状況のもとに、「住民協働」を展開することが求められます。「新しい公共」のとらえ方を要約すると、行政と住民の二元論ではなく、「住民」(2)も「公・おおやけ」を担える考え方で、いままで行政が担ってきた公の領域を「協働」によってまちづくりを推進することです。協働はパートナーシップですから、相互対等が原則です。しかしながら、行政の行動原理(3)とNPOの行動原理など違う立場の者が一つの事業に取り組むことから、互いの力量には相当な開きがあり、異質性の乖離において対等はありませんという知見があります。いずれにしても、協働には「主体性」がどちらにあるかが問題です。

「地域自治のまちづくりー協働のまちづくり」において「住民参加」、「住民参画」、「協働」が広く使われます。一般的に「参加」は、個人概念にとらえ、住民が行政の呼びかけに応じて

行政活動(4)に加わる場合に使われています。一方「参画」は、組織と組織にある概念(5)にとらえ、行政の「新しい公共」領域における事業等の政策課程のプロセス(6)においてNPO、企業の社会的部門などが参画する場合に使われ、協働の仕組みづくりが可能となります。

「協働」は、事業目的に対する付加価値を高める仕組みの手法で、事業の成果が1+1=2ではなく、3、4になることが期待されます。利益を優先する企業との事業はアウトソーシング事業であって、主体性がほとんど行政にあることから「協働」とは言わないことに留意することが必要です。

(1) 分権型社会に対応した地方行政組織運営の刷新に関する研究会における中間論点整理(社会経済情勢、少子高齢化の進捗・生産対象人口の減少、団塊世代の大量退職による税収の後退など)

(2) ここでいう「住民」とは、「地域住民」のことで、地域内に居住するすべての生活者住民であり、地方自治法における「住民」を指している。

(3) ・行政サービスは、公平・平等が求められる。
・職務の執行は、地方公務員として法令や施策方針等および先例に基づき行動し、責任体制が明確である。反面において、個人的な意見、活動には制約があり主体性、柔軟性に欠ける。
・担当課長が2年～3年ぐらいで移動するため、事業の継続性に課題を残す。

(4) 審議委員会委員など。

(5) NPO法人、ボランティア団体など。

(6) 「計画(Plan)」→「実施(Do)」→「評価(See)」

編集後記

新しい年度が大変な社会の中で始まりました。時間の流れがガラリと変わったような感覚、自分に何ができるのか、今何をすべきなのか、まちサポに来所される方との話題も、以前とは変わってきました。みんな町のことを考えているなど感じてます。

これから夏になると大活躍のTシャツ。まちサポのキャラクターのあみくんとさぼちゃんのみまちはいいかですか？
まちサポのおすすめの1枚。
カラーは5色。黒・黄色・青・カーキ・赤(残り薄)大網白里の名前入りです。お土産にもおすすすめです。
二人のキャラクターは、他に、スタッフポロシャツとブルゾンがあります。

まちサポショップ
今月のおすすめ



1着 1,600円

大網白里まちづくりサポートセンター

大網白里町大網 32-3
<http://machisapo.net>

TEL/FAX ; 0475-72-8278
E-mail:info@machisapo.net